

未更毛川の  
ゲンジボタルと  
田んぼの  
ヘイケボタル

# 平成23年度安居地区ホタルマップ



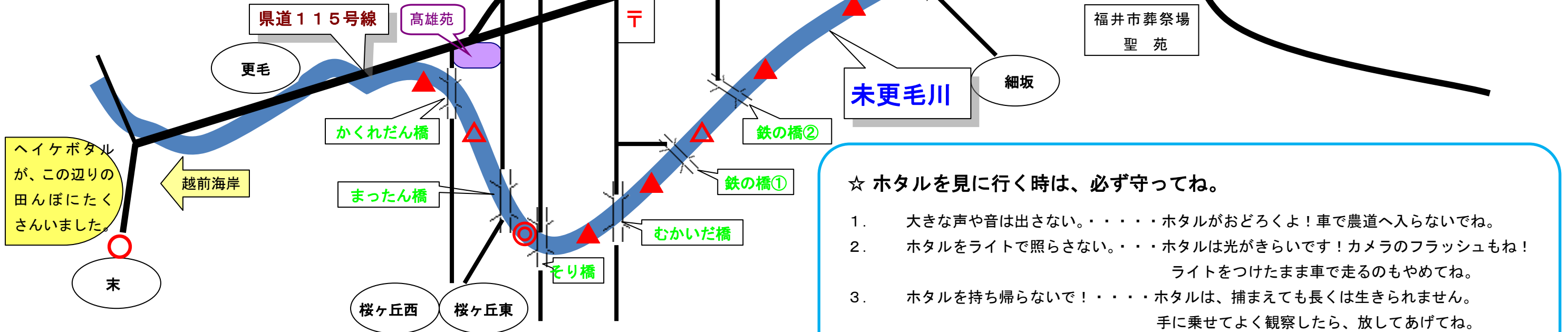
発行 平成23年11月5日  
安居公民館環境講座「安居の里を守る会」

記号の見方  
(H23. 5.20~6.25)

ゲンジボタルが

- ◎ とても多い
- 多い
- △ 少ない
- ▲ とても少ない

ヘイケボタルが、  
この辺りの田んぼに  
たくさんいました。



ヘイケボタルが、この辺りの田んぼにたくさんいました。

## ☆今年も、ヘイケボタルがたくさん光っていました。

末と本堂で、6月初旬にヘイケボタルを見つけました。特に本堂での数が多く、ゲンジボタルよりも多かったほどでした。安田と北堀の間の田んぼにも、たくさんいたという報告がありました。ヘイケボタルは田んぼの畦に固まって光っていることが多いです。また、田んぼの上をフワフワと飛ぶ姿も見られます。ゲンジボタルに比べて点滅のスピードが速く、星が瞬くような感じです。高い木の枝に止まって光っているのも、たくさんいました。クリスマスツリーのような感じでしたよ。

## ☆ ホタルを見に行く時は、必ず守ってね。

1. 大きな声や音は出さない。・・・ホタルがおどろくよ！車で農道へ入らないでね。
2. ホタルをライトで照らさない。・・・ホタルは光がきらいです！カメラのフラッシュもね！  
ライトをつけたまま車で走るのもやめてね。
3. ホタルを持ち帰らないで！・・・ホタルは、捕まえても長くは生きられません。  
手に乗せてよく観察したら、放してあげてね。
4. ハザードランプを点灯しない。・・・ヘイケボタルが点滅に反応してしまいます。光のコミュニケーションを攪乱するので、絶対にやめてね。
5. 草むらには危険な生きものもいるよ！・・・安易に手を入れないでね。できれば長靴を履いて行きましょう。
6. ごみを捨てないで！・・・ホタルを見る時だけでなく、いつでも大事なマナーです。

# “つたえよう つなげよう 安居の郷!” ~未来へ残そう ホタルを育て 未来を創~

☆ホタルの光は、やすらぎを与えていると言われています。

みんなで大切にしようね。

さて、ここで質問です。みんな、わかるかな？



1. ゲンジボタルの成虫は、羽化した後どのぐらいの間飛んでいますか？
2. ヘイケボタルは、どこにいるのかな？  
(答えは、マップのどこかに書いてあるよ。)

## 《講座生から一言》

○昨年の下半期から今年の活動で4つの収穫があった。

1. 安居っ子ホタルレンジャーが行った未更毛川の水質と生きもの調べの結果（H22 実施）、水はわりと「きれい」で多くの生き物が住んでいることがわかった。
2. 改修した農業用水路で、でき上がったばかりの生き物堰（せき）にカワニナが生育していることが分かり、今後ホタルの幼虫放流により繁殖に期待が持てること。
3. 観測範囲を安田地区まで広げ、発生ポイントを確認できたこと。
4. 環境講座が、緑のカーテン設置推進の活動とともに「安居の里を守る会」に改編され、安居のまちづくりの一つに加えられたこと。

安居の住みやすい里作りのためには、まず地区の方が十分に理解し、自然と開発の共生、他の関係団体との一致協力がなければ絶対に成し得ないことだと思う。

まずは「つたえよう つなげよう 安居の郷」をスローガンにして、私たちができることから行い、環境講座に加わってくれる方を増やし、当面は末～恐神までのホタル観測網を確保することを目標にしていきたいと思う。

○観察を始めて3年目になった。今年は3人で5月10日頃から開始し、いくつかの発見と感動があった。それは、羽坂団地の南側の未更毛川流域で、とてもたくさんのホタルが光っていたことと、堤防の草むらに数匹のホタルの塊がいくつもあって、まるでイルミネーションのように美しかったことである。川の泥上げをして2年目になるが、わずかに残った命が繋がったのだ。ますます来年に期待したい。

○ホタル調査はとても疲れたが、光っては消えるホタルに、心静かな時を過ごせた。「おしりライトだ。」と喜ぶ孫、「幻想的です。初めて見ました。」という長男のお嫁さん。幸せな一時であった。また来年もホタルに会えるよう、少しでも協力できたらと思う。

## 安居に生息するゲンジボタルの一生

ゲンジボタルは、産卵 → 孵化 → 幼虫 → さなぎ → 羽化 → 成虫という成長過程をたどります。国内では、北海道をのぞく川の水がきれいなところに住んでいます。桜前線のように、その発生時期は南から北へと順に上がっていきます。

下の図は、福井県ホタルの会の日和佳雅さんが作成したものです。

このマップに載せるにあたり、許可を得てそれぞれの時期を安居における発生状況に合わせて記載しました。ゲンジボタルが育つためには、水・土・草木などすべての自然環境が大切であることがよくわかります。

